

観光力・消防力さらに前へ

塚本まさる

Tukamoto Masaru
奈良市議会議員

議会活動報告



周辺の道路整備

西大寺駅南北自由通路、令和2年完成 渋滞解消へ「もう一步踏み込みを」

奈良市議会の塚本勝は、昨年度の議会活動の中、工事が進む近鉄大和西大寺駅周辺整備事業や「開かずの踏切」解消、国土交通省への陳情、平城宮跡に隣接する積水化学工業跡地のまちづくりなどに取り組んできました。またライフワークの「安全・安心のまちづくり」と「国際観光都市のさらなる発展」をキーワードに会派を代表する代表質問や一般質問を行ってきました。昨年度のわたしの議会活動を「ご報告させていただきます」。

奈良市の副都心になっている近鉄大和西大寺駅は1日約4万7000人が利用する交通の要所です。しかしこれまで居住エリアと商業エリアを駅と線路が横断し、車の渋滞や歩行者の危険、安全確保などの課題がありました。これらの解消を目的に現在、南北を高架でつなぐ自由通路の整備が行われており、令和2年度末の完成を目指し工事が進んでいます。完成後は歩行者の安全確保がより高まるほか、駅利用の利便性の向上が期待されています。

しかしながら、この南北自由通路の整備だけでは、頻繁に発生する車の渋滞と、通称「開かずの踏切」と言われる「あやめ池8号踏切」の解消には程遠く、「もう一步踏み込んだ道路の整備計画」が必要として、整備が進んでいない大和中央道計画の「敷島工区」「若葉台工区」を阪奈道路まで接続することなどを議会で訴えてまいりました。

また自由通路の整備に合わせて行われている西大寺駅北地区の街路事業についても同時期に利用が開始できるように求めました。仲川元庸市長から大和中央道については「敷島工区は本市の街路事業の最重要路線の一つとしても位置づけていく。平成30年3月末時点での用地

買収率は96%で、社会資本整備総合交付金を利用し整備を進めている。整備工事を積極的に推進するとともに、国の補正予算の獲得にも努めていきたい」との答弁がありました。

西大寺北地区の街路事業について仲川市長は「自由通路の供用開始と同時期（令和2年度末）を工事完了目標として、駅前広場を含む街路事業を進めている」との考えを示し、「もう一步踏み込んだ道路の整備」を求めるわたしの質問に対して、「大和中央道の整備促進、そして西大寺駅北側の街路整備とあわせて、現道の抱える課題解決を最優先に、周辺の道路環境の改善とあわせて検討する」と述べられました。

このほか、近鉄線の線路の高架化（立体交差化）を、同社、県と共に市が積極的に進め、JR奈良駅周辺の整備事業で効果を出したように、美しく、利便性の高い都市景観を創造するよう、強く求めました。



道路整備予算確保のため国交省へ陳情



近鉄西大寺駅整備事業の完成イメージ図

平城宮跡に隣接する積水化学工業跡地利用について、同社と県、市の3者間で包括協定が結ばれました。さらなる平城京の歴史的価値をアピールし、東京オリンピック、パラリンピック、大阪万博に向けた観光客増と、観光経済の発展を目指していくことに期待がかかります。議会では、この跡地利用に向けた3者間のスケジュールや、奈良市として提案する具体案について質問を行いました。またこれらの提案を市が積極的に取り組むことを求めました。

市積極提案求める 積水化学、県、市で包括協定

仲川市長からは「工場の解体後、空き地として放置しておくというところは地域の治安や活性化の面でもよくない。速やかに事業に取り組むことができるよう、早期に素案をまとめていきたい」と答弁があり、続けて整備案は「官民を挙げて平城宮跡エリアの相乗効果による集客を図っていきたくと考えている。国の内外から多くの観光客に訪れていただき、周辺の景観にも配慮しながら、世界遺産の平城宮跡をさらに世界に発信できるように計画したい」と述べられました。

